

* 関 勝 則 「私の昭和時代」 探訪。

《44》 昭和末期から平成初期にかけてのバブル景気(その3)

昭和61(1986)年11月に始まったバブルの現象はその後も経済全体に波及し、この景気がずっと続くという楽観論が蔓延していきました。翌年の昭和62年10月には、世界的株価大暴落「ブラックマンデー」が発生。その影響が世界中に及び、日本も過去最大の暴落が起りましたが、日本政府は金融緩和を継続的に実施。世界同時株安から最初に脱出し高値を更新したことにより、日本経済の影響はほとんどなく、更なるバブル景気へと突き進んでいきました。

地価は右肩上がりです。上昇し続ける状況においてバブル景気を象徴するのが「地上げ」です。潤沢な資金を背景とした大都市の再開発が活発化するなかで、事業用地などを確保するために不動産会社による土地買収が盛んに行われました。都心の優良な土地には、借家や借地が混在し、権利関係が複雑に絡んでいるケースが多く、細切れの土地を買い取り、区画を大きくするためには地上げという手法が頻繁にとられました。そんななかで地主や住民を恫喝して強引に土地を買い漁り、土地がまとまると転売し利益を得ようとする、暴力団を含んだ地上げ屋が台頭。土地の所有者への嫌がらせが横行し、放火なども相次いで発生しました。バブル景気のもう一つの象徴が電電公社の民営化によるNTT株の株式公開です。

昭和62年2月の第1次売り出し価格は1株が119万7千円。「買い」が殺到し初値160万円という高値で売買がスタート、その後も買いは止まらず、2か月後には318万円まで高騰し、当時の時価総額世界一を記録しました。

この頃、人々は借金を恐れなくなり、借入金を増やしてモノを買うという行動が次々と広がり、経済をさらに活性化させ、その結果消費需要は高まり、土地投機や株式投機への熱が加速していきました。

バブルの頂点では、東京銀座の地価が1坪1億円を超え、それをきっかけにさらに暴騰しました。買えば値上がりか当然とされたマンションの販売には購入希望者が殺到し、宝くじ感覚の抽選が行われました。ゴルフ会員権市場にも買いが集中し、「億カン」と呼ばれる1億円超えのゴルフ場も多く存在しました。他にも世界的に著名な画家の絵画や骨とう品、フェラーリやロールスロイスなどの高級輸入車などにも及び、企業や富裕層を中心とした財テクブームと消費ブームが過熱しました。

やがて、昭和63年から昭和64年にかけて、バブル景気は最盛期を迎え、いつ弾けてもおかしくないような状況へと進んでいきました。



関勝則の市会日記

夏休みは…
ご家族そろって「ハマジオ」へ!

磯子区滝頭にある「横浜市電保存館」では、令和5年8月に開館50周年を迎えるにあたり、館内にあるジオラマゾーンを全面改修しました。私は磯子区選出の市会議員として7月18日のリニューアルオープン記念式典に地域の自治会町内会の方々とともに記念式典に伺ってまいりましたのでご報告いたします。

横浜市電保存館では、来館者に実物の市電車両に触れていたり、資料の展示を通じて横浜市営交通が市民の生活を支えてきた歴史と魅力を伝え、後世に繋げるよう取組を進めています。

今回改修された「ハマジオラマ」は、鉄道やバスが走る模型ジオラマをメインとして、交通の歴史や市民生活に密着した地下鉄・バスの役割を楽しみながら分かりやすく学ぶことができるゾーンとなっています。

入館料は、高校生以上が300円、3歳から中学生までが100円となっております。月曜日が休館日です。

夏休み中のお子さんの学習や市電(チンチン電車)の歴史に触れる等ご家族そろって出かけしてみたいかがでしょうか。

模型ジオラマには…

「鉄道発祥の地である横浜駅から桜木町・みなとみらいエリア」と「新横浜駅周辺エリア」をメインに、駅舎や市内の象徴的な建物を配置するなどの工夫が施され、模型車両はH0ゲージを採用して、街や地価を走る電車やバスの走行を様々な方向から観覧することができます。

さらに、映像・照明・音響を組み合わせた運転ショーや壁面のイラストを用いた年表で子どもから大人まで幅広い層に楽しみな学んでいただくことができます。